

第149回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和 8年 1～3月期実績・令和 8年 4～6月期見通し)

1. 調査時点 令和 8年 3月 2日～3月 6日
2. 調査対象企業数 159社中回答 159社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以上	1	1	100.0
〃	従業員 300人以下	32	32	100.0
建設業	従業員 300人以下	2	2	100.0
〃	従業員 50人以下	36	36	100.0
卸売業	従業員 50人以下	9	9	100.0
小売業	従業員 50人以下	50	50	100.0
サービス業	従業員 300人以下	1	1	100.0
〃	従業員 50人以下	28	28	100.0
合計		159	159	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 地域支援部 地域支援課（Tel. 0146-22-4113、内線 201）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2丁目 31番地 2

全業種総合 159 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期(令和8年1~3月期)の業況判断D. I. は△18.2と、前期(0.6、令和7年10~12月期)比18.8ポイント下降した。前年(△33.7)比では15.5ポイント上昇した。前期(令和7年10~12月期)調査時点での今期(令和8年1~3月期)見通し(△25.3)を7.1ポイント上回る水準となった。業種別の業況判断D. I. は、製造業△12.1(前期12.1)、建設業0.0(同13.2)、卸売業△22.2(同0.0)、小売業△34.0(同△12.0)、サービス業△20.7(同△7.1)となった。

売上額判断D. I. は△26.4と、前期(7.0)比33.4ポイント下降、収益判断D. I. は△28.9と、前期(△0.6)比28.3ポイント下降した。

来期(令和8年4~6月期)の予想業況判断D. I. は△14.5と、今期実績比3.7ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造業△12.1(今期△12.1)、建設業△21.1(同0.0)、卸売業△11.1(同△22.2)、小売業△20.0(同△34.0)、サービス業0.0(同△20.7)と来期を見通している。

【業種別天気図】

業 種 \ 時 期	地 区 内				北 海 道	全 国
	2025年 7月~9月	2025年 10月~12月	2026年 1月~3月	2026年 4月~6月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

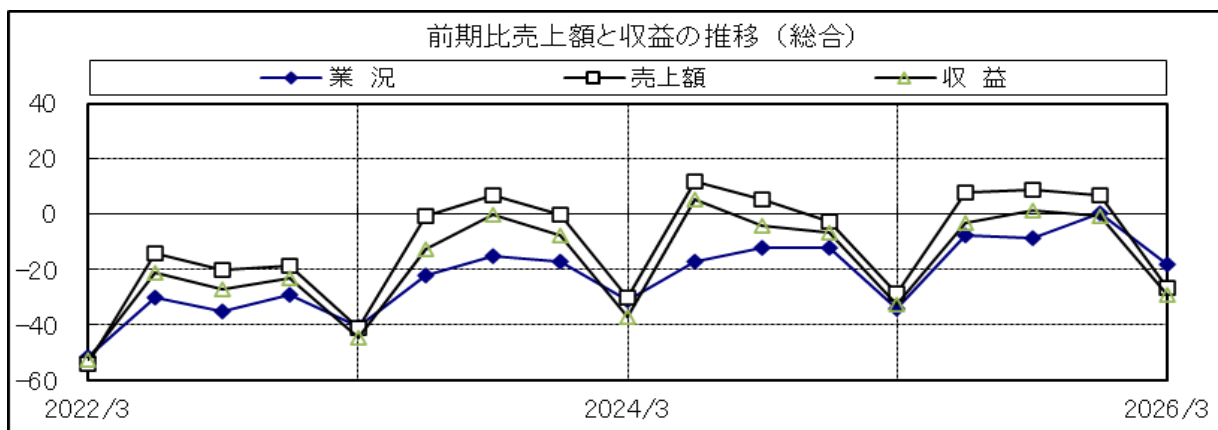
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-8.8	0.6	-18.2	-14.5
売上額	8.8	7.0	-26.4	8.8
収 益	1.3	-0.6	-28.9	1.3

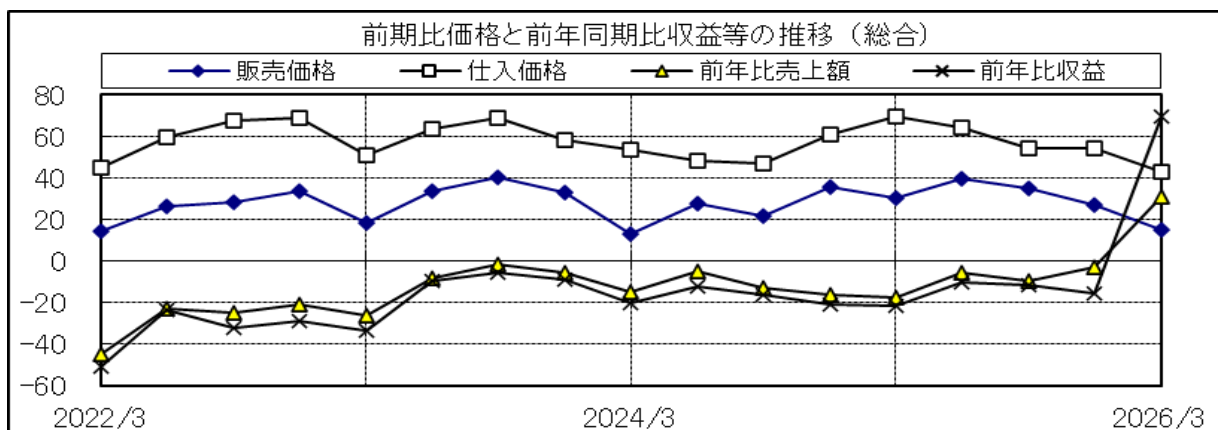
全業種総合の今期の業況判断 D. I. は△18.2 で、前期比 18.8 ポイントの下降、前年(△33.7)比では 15.5 ポイント上昇した。地区別の D. I. は、高い順に、三石が最も高く、次に浦河、様似、静内、えりもと続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△26.4 で、前期比 33.4 ポイント下降。収益判断 D. I. は△28.9 で、同 28.3 ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	35.0	27.2	15.1	18.2
仕入価格	54.4	54.4	42.8	38.4

販売価格判断 D. I. は 15.1 で、前期比 12.1 ポイント下降、前年(30.7)比で 15.6 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 42.8 で、前期比 11.6 ポイント下降、前年(69.3)比で 26.5 ポイント下降した。業種別の前期比を見ると、販売価格は小売業、サービス業が上昇、他の業種は下降した。仕入価格は、サービス業が上昇、他の業種は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-0.6	0.6	-11.9	-6.9
人手状況	-34.4	-34.8	-34.0	-34.6

残業時間判断 D. I. は△11.9 と、前期比 12.5 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△34.0 と、前期比 0.8 ポイント上昇し、人手不足感は若干弱まった。

□ 設備投資の動き

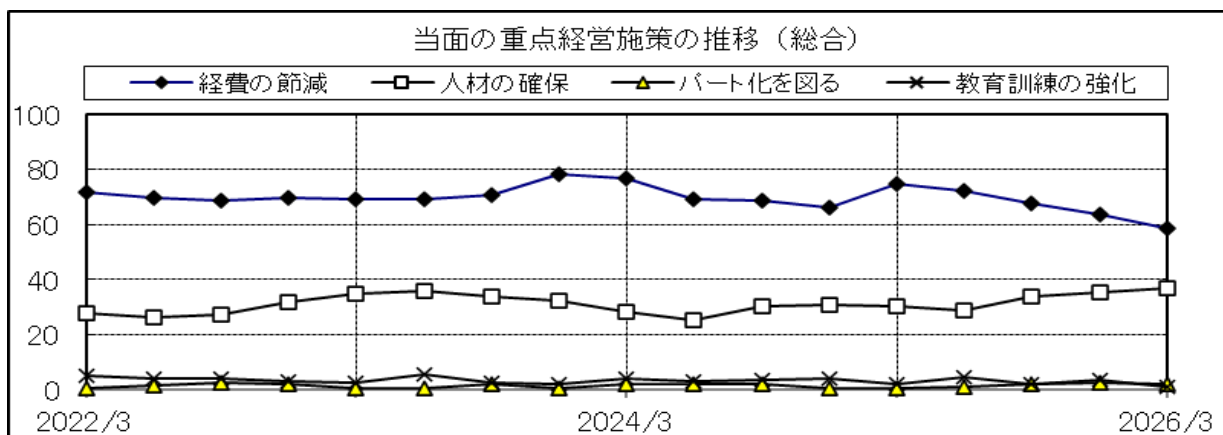
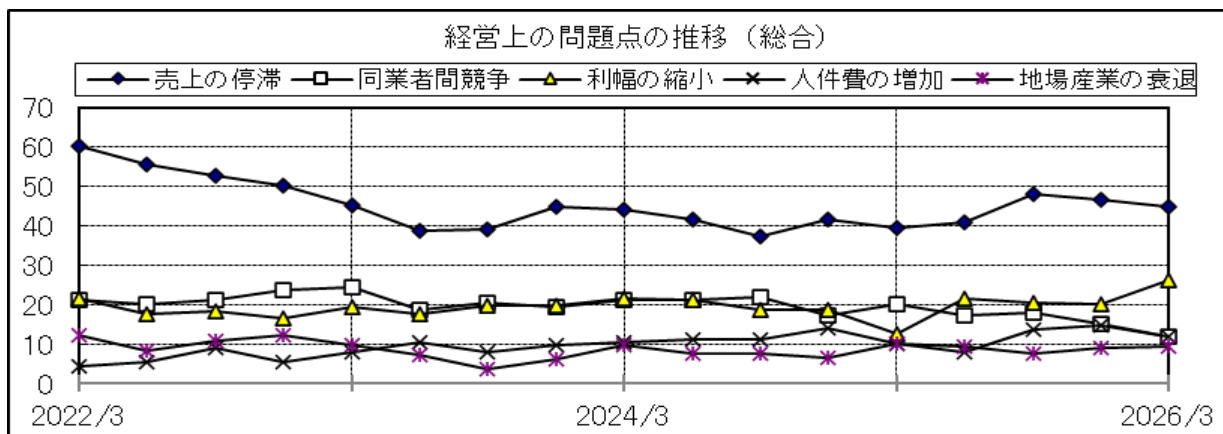
設備投資の充足感を示すD. I. は△6.9で、前期(△14.6)比7.7ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は13.8で、前期(20.3)比6.5ポイント下降した。設備投資は、前期32社に対し、22社の実施となった。来期の設備投資は、21社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が44.7%で最も多く、次に「人手不足」30.2%、「利幅縮小」26.4%、「同業者競争」・「人件費増加」が同率の11.9%、「地場産業衰退」9.4%、「諸経費増加」7.5%、「天候不順」2.5%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が58.5%と最も多く、次に「人材確保」37.1%、「パート化」・「不動産有効活用」が同率の1.9%、「教育訓練強化」1.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△14.5と、今期比3.7ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は8.8と、今期比35.2ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は1.3と、今期比30.2ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は18.2と、今期比3.1ポイントの上昇を見通している。

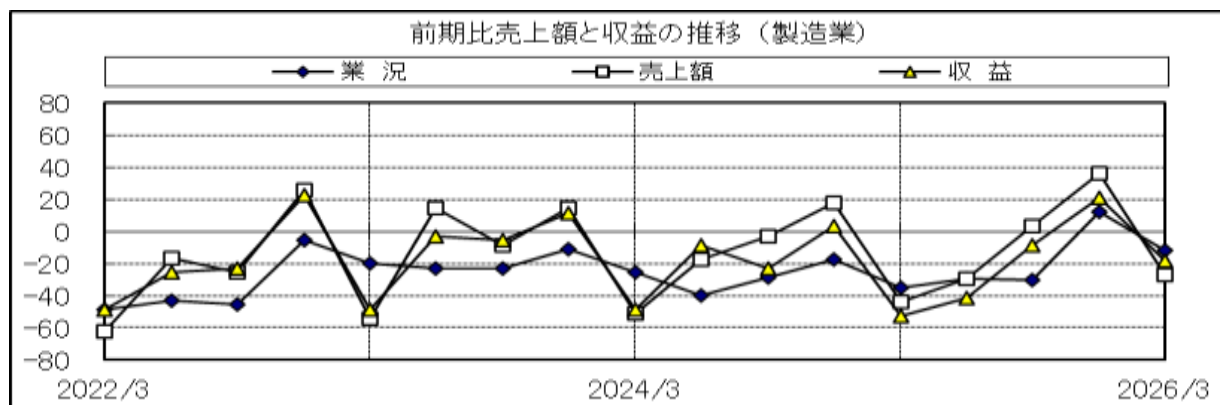
予想仕入価格判断D. I. は38.4と、今期比4.4ポイントの下降を見通している。

製造業 33企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-30.3	12.1	-12.1	-12.1
売上額	3.0	36.4	-27.3	0.0
収 益	-9.1	21.2	-18.2	-6.1

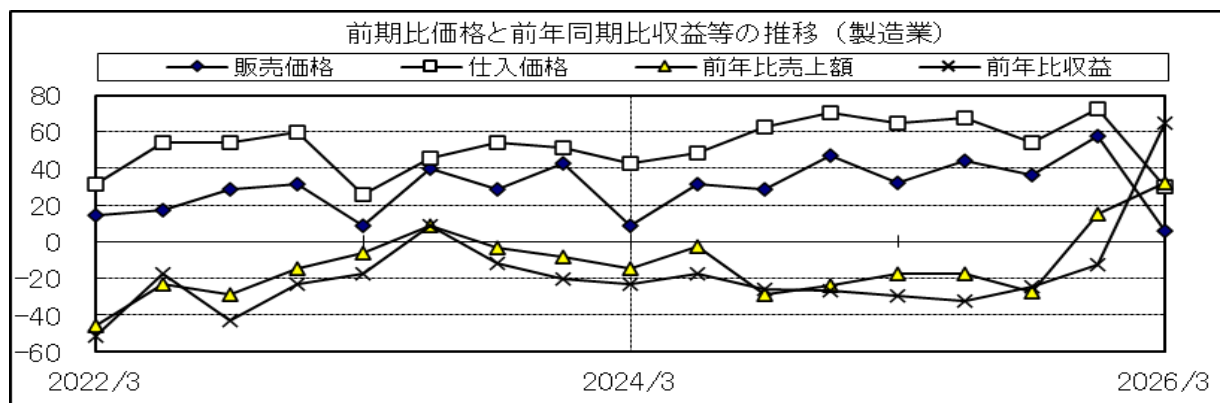
今期の業況判断D. I. は△12.1で、前期比 24.2 ポイント下降、前年(△35.3)比で 23.2 ポイント上昇した。地区別のD. I. は高い順に、浦河が最も高く、次に様似、三石、静内、広尾と続きえりもが最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△27.3 で、前期比 63.7 ポイント下降。収益判断 D. I. は△18.2 で、前期比 39.4 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	36.4	57.6	6.1	6.1
仕入価格	54.5	72.7	30.3	12.1

販売価格判断D. I. は6.1で、前期比51.5ポイント下降、前年(32.4)比では 26.3 ポイント下降した。仕入価格判断D. I. は30.3で、前期比 42.4 ポイント下降、前年(64.7)比 34.4 ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-3.0	15.2	-9.1	9.1
人手状況	-42.4	-42.4	-33.3	-24.2

残業時間判断D. I. は△9.1で、前期比 24.3 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D. I. は△33.3で、前期比 9.1 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

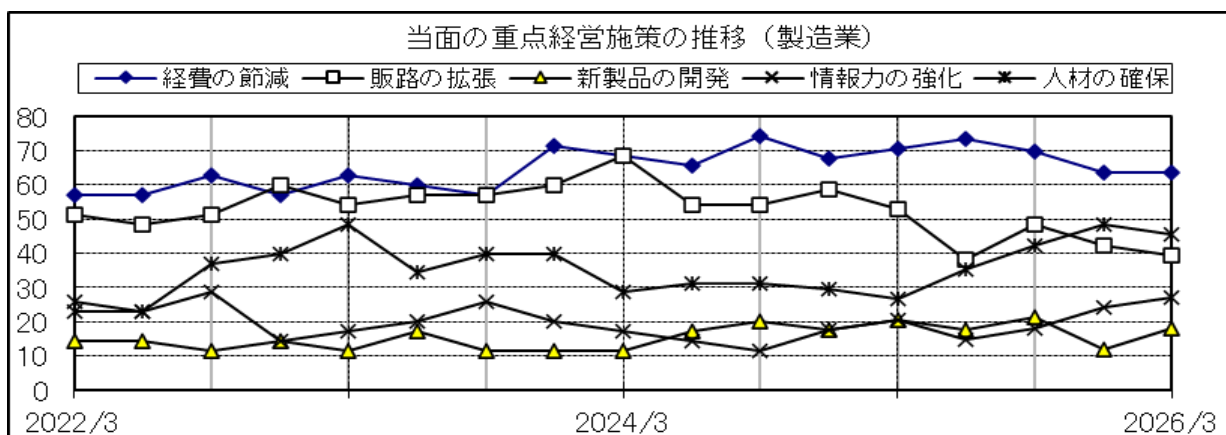
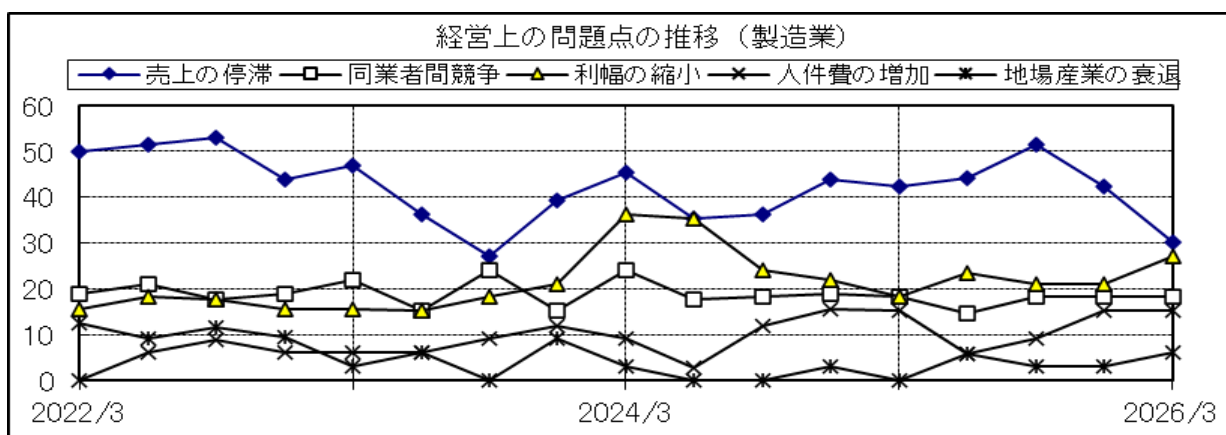
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.1$ で、前期($\Delta 15.2$)比3.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は18.2で、前期(30.3)比12.1ポイント下降した。設備投資は、前期10社に対し6社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が60.6%と最も多く、次に、「人手不足」が33.3%、「売上停滞減少」30.3%、「利幅縮小」27.3%、「同業者競合」18.2%、「人件費増加」・「諸経費増加」・「工場機械老朽化」が15.2%、「大手企業競合」・「値上要請」・「生産能力不足」が9.1%、「地場産業衰退」6.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が63.6%と最も多く、次に「人材確保」が45.5%、「販路拡大」39.4%、「情報力強化」27.3%、「新製品開発」18.2%、「不採算部門縮小」・「提携先確保」・「機械化促進」・「パート化」・「教育訓練強化」・「工場増設移転」が3.0%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 12.1$ と、今期と同水準を見通している。

予想売上額判断D. I. は0.0と、今期比27.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 6.1$ と、今期比12.1ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は6.1と、今期と同水準を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は12.1と、今期比18.2ポイントの下降を見通している。